

かけはし

〈理念〉

兵庫医科大学ささやま医療センターは、安全で質の高い医療を通じて、地域社会へ貢献するとともに、よき医療人を育成します。

〈基本方針〉

- 患者の立場に立ったチーム医療の実践
- 人間性豊かで、優れた医療人の育成
- 科学的な根拠に基づく医療の実践
- 健康増進活動による地域の保健・福祉の推進
- 地域の医療機関との円滑な連携

〈患者さんの権利〉

- 良質で安全な医療を平等に受けることができます。
- 病気や治療について、わかりやすく十分な説明を受けることができます。
- 診療内容をご自身で選択することができます。
- 診療内容について、他の医師の意見を聞くことができます。
- ご自身の診療情報を入手することができます。
- いかなる状況においても人間としての尊厳が守られます。
- プライバシーは常に保護・尊重されます。
- 患者さんの権利に関する「リスボン宣言」を尊重し、患者さん本位の医療を実現することができます。

◆広報誌の名称について◆

平成25年7月より、篠山市の皆様への情報提供を目的として、広報誌を発行したところですが、この広報誌の名前を“かけはし”といたしました。

広報誌が篠山市の皆様への素晴らしい連携の架け橋となれますよう、想い、期待、希望…等々を込めて命名いたしました。今後、“かけはし”を通じて様々な情報を発信してまいりたいと存じますので、よろしくお願い申し上げます。

◆ピロリ菌について◆



病院長 福田 能啓

「胃ガンのもと、それはヘリコバクター・ピロリ？」で始まる歌があります。爆風スランプの「ヘリコバクター・ピロリ」という曲です。平成7年にリリースされました。この当時、「ピロリが胃がんの原因になる」ということはすでに学会では知られていることでしたが、まだ保険診療で治療することはできませんでした。今年(平成25年)になってようやく「ヘリコバクター・ピロリ感染胃炎」に対しての除菌治療が保険適用になりました。

「ピロリ菌は子供の時に感染するのだろう」と考えられています。感染すると胃の中は、「慢性萎縮性胃炎」という状態になり、胃がんが出てくるリスクが高くなっていくと考えられます。ピロリ菌に感染していると胃潰瘍や十二指腸潰瘍もできやすくなるのがわかっています。そのほかにも、特発性血小板減少性紫斑病、胃マルトリンパ腫などを引き起こすことがあります。

ピロリ菌に感染しているかどうかを調べる方法は、いくつかあります。内視鏡検査のときに、胃粘膜を少し採取して培養を行い顕微鏡で調べたり、迅速ウレアーゼ検査で調べたりすることができます。また、内視鏡を使わずに調べることもできます。血液や尿の中のピロリ菌に対する抗体を測定したり、尿素呼気試験という方法で呼気を測定したりして感染の有無を調べることができます。さらには、検便で調べる方法(便中ピロリ抗原検査)もありますが、1種類の検査では正確性に欠けるため、複数の検査を行う場合があります。

最近では、ピロリ菌に対する抗体とペプシノーゲンを測定して胃がんのリスクを推定しようとするABC検診が健康診断に取り入れられるようになってきました。精密検査が必要な場合には、どうぞ「兵庫医科大学ささやま医療センター」にご相談ください。

ピロリ菌の退治には、プロトンポンプ阻害薬という酸分泌を抑制する胃の薬と2種類(アモキシシリンとクラリスロマイシン)の抗生物質が入った薬を1週間服用していただくことになります。胃内視鏡検査をしていただき、「ピロリ感染胃炎」と診断された場合には治療に入ることになります。除菌薬にはペニシリン系の抗生物質が入っていますので、ペニシリンアレルギーのある方は服用できません。アレルギーがないとこれまで思っていた方でも、発疹が出ることがあります。軟便、下痢、血便、味覚異常等の症状がみられることもあります。ピロリ菌退治に失敗した場合には、クラリスロマイシンをメトロニダゾールに変更した除菌薬で再除菌することができます。

いろいろな病気をお持ちの方やご高齢の方は、除菌治療が辛い場合もありますので、かかりつけ医にご相談ください。

なお、篠山市もピロリ検診に取り組んでいます。

◆平成 25 年度 中学生夏休み病院体験セミナーを開催しました◆

篠山市内の中学生を対象として、医療への関心を持っていただくとともに、将来の職業選択の1つとして医療職を紹介させていただくために、昨年度に引き続き、8月6日に夏休み病院体験セミナーを開催し、女子生徒6名の参加がありました。

看護部長による挨拶及びオリエンテーションの後、病院長から「生命のメカニズム～命の尊さと男性・女性～」という内容でセミナーが行われました。

今回参加した生徒さんには、将来母親となる立場で、生まれてくる命の大切さを改めて学んでいただけたかと思えます。

午前中は病棟において、ベッドメイキング、血圧測定、手洗いや日常生活ではなかなか体験できない聴診などもしていただきました。病院食の試食では、食事介助を通じて、患者さんの立場に立った介助も学んでいただきました。

午後からは、施設内見学を行いました。その中でも特にMRIに関心を持たれたようで、担当職員の説明にも熱が入りました。

最後に、将来看護職や介護職を目指す生徒さんのために、今後の進路の紹介を奨学金制度の説明と併せて行いました。参加者の中には、看護師志望はもちろん薬剤師を志望する生徒さんもおられ、大変好評であったことから、来年度も更に充実したセミナーを開催したいと考えています。

◆新看護師宿舎の建築について◆

当センターでは、医療従事者の確保、とりわけ看護職員の確保、定着を大きな課題と掲げており、様々な対策を講じております。

この対策の一環として、現在不足している看護師宿舎を建設することになりました。来年3月完成予定で、これに向けて8月から順次工事を進めております。

当センター周辺の皆様には、工事期間中、ご迷惑をおかけすることもあろうかと存じますが、新看護師宿舎建設によって看護師が定着すれば、篠山市の皆様にも、より安定した医療と看護ケアが提供できるものと考えますので、何卒ご理解くださいますようお願い申し上げます。

なお、写真は7月31日に執り行われた新看護師宿舎建設“地鎮祭”の様子です。

